

お薬手帳を持参しない人の特徴を分析し 結果から対策を考える

株式会社あおい調剤グループ  スブルー・メディカル株式会社

黒田 亮顕

藤森 将弘・勝亦 大介・有田 明弘・西川 潤・松村 卓

はじめに

お薬手帳は患者の「薬にかかわる記録」「アレルギー」「副作用」などの情報を記載した、患者の命・健康を守る大切なツールである。東日本大震災の際は、お薬手帳が患者のカルテ代わりとなり、お薬手帳の情報から患者の服用薬のみでなく、疾患をも判断することができた。今回、手帳を持参しない人の特徴を分析し傾向を知ること、手帳持参していただけるよう対策を打つことで、より多くの患者にお薬手帳を持参していただきたいと考え、調査を行った。

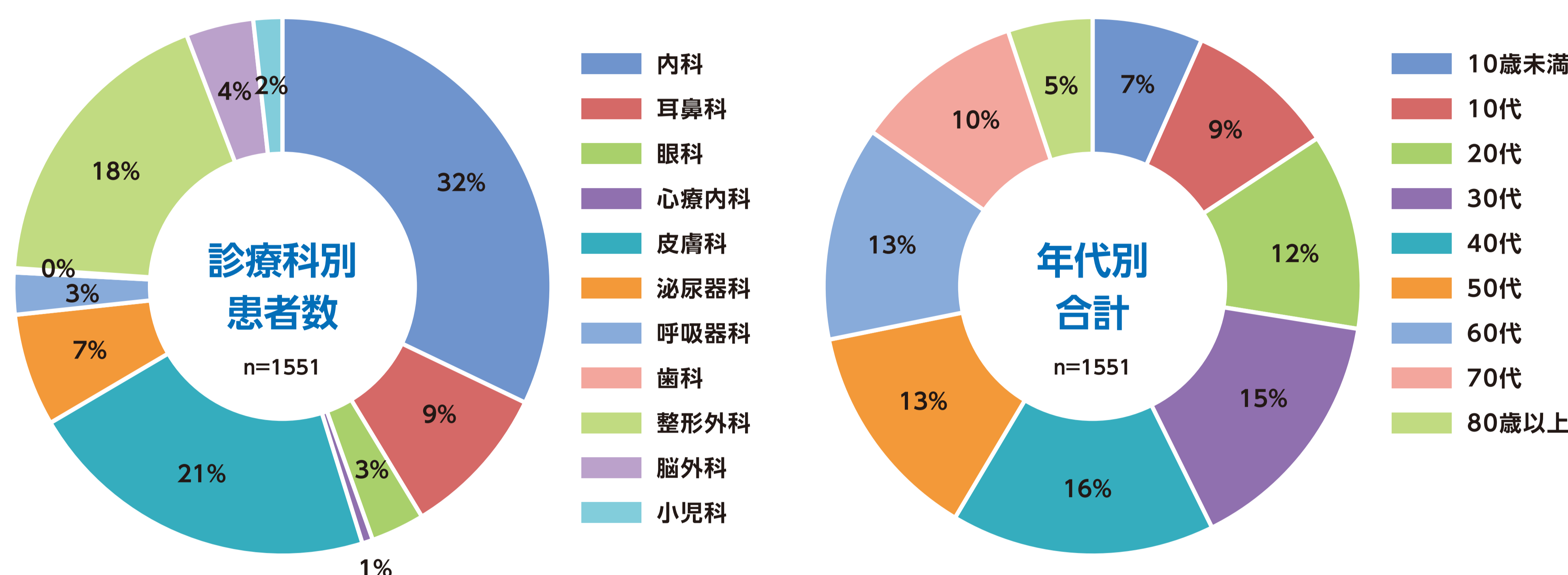
アンケート原本

| | | | | | | | | | | |
|---------|-------------|-----|---------------|-----|------|-----|-----|-----|-------|--|
| 診療科 | | | | | | | | | | |
| 年齢 | 10歳未満 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80歳以上 | |
| 疾患 | 急性 | | 慢性 | | | | | | | |
| 忘れられた理由 | どこにあるかわからない | | 持っているが気づいていない | | うっかり | | その他 | | | |
| 来局頻度 | 頻回 | | 定期的(毎週・毎月など) | | 不定期 | | | | | |
| 他科併用薬 | あり | | なし | | | | | | | |
| 他科併用薬 | あり | | なし | | | | | | | |

集計方法

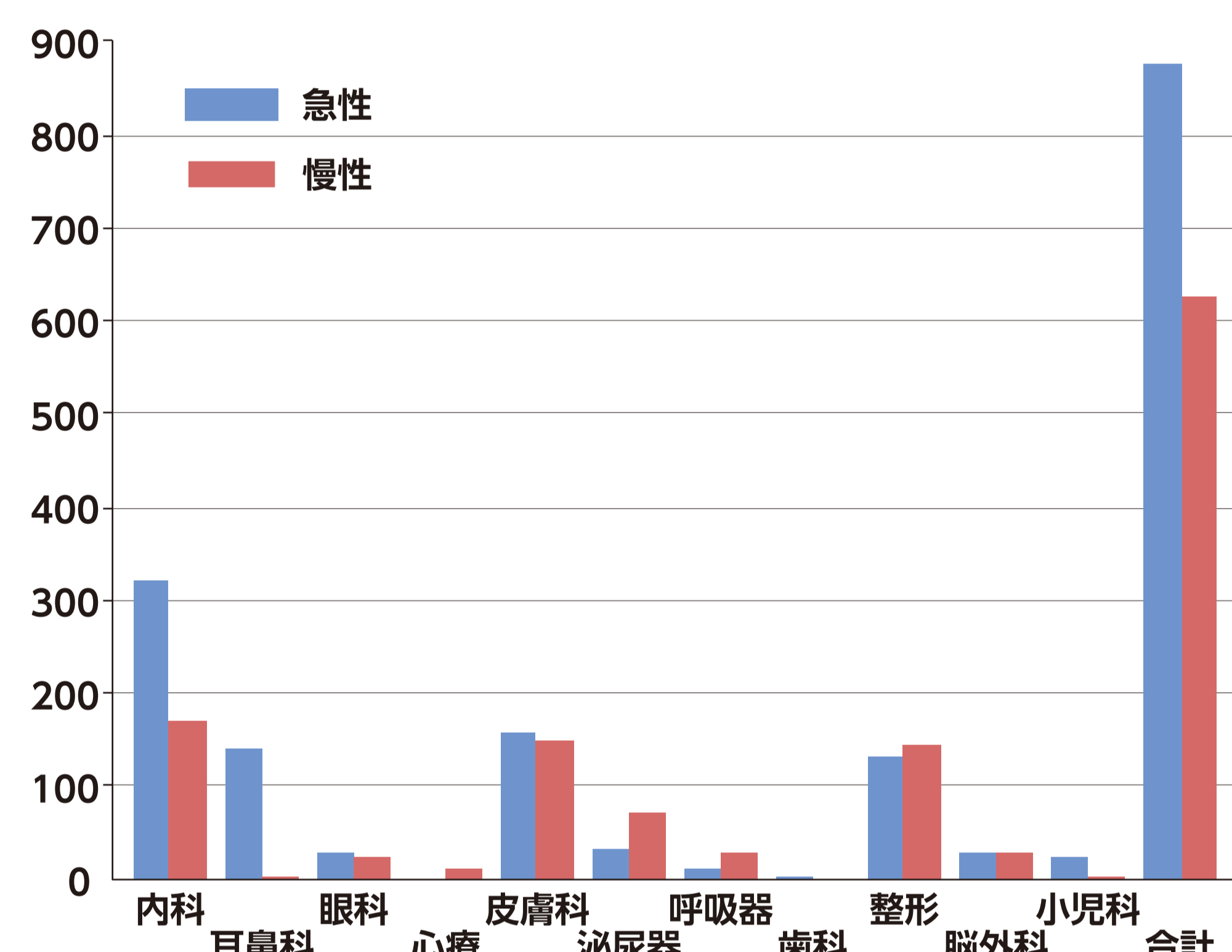
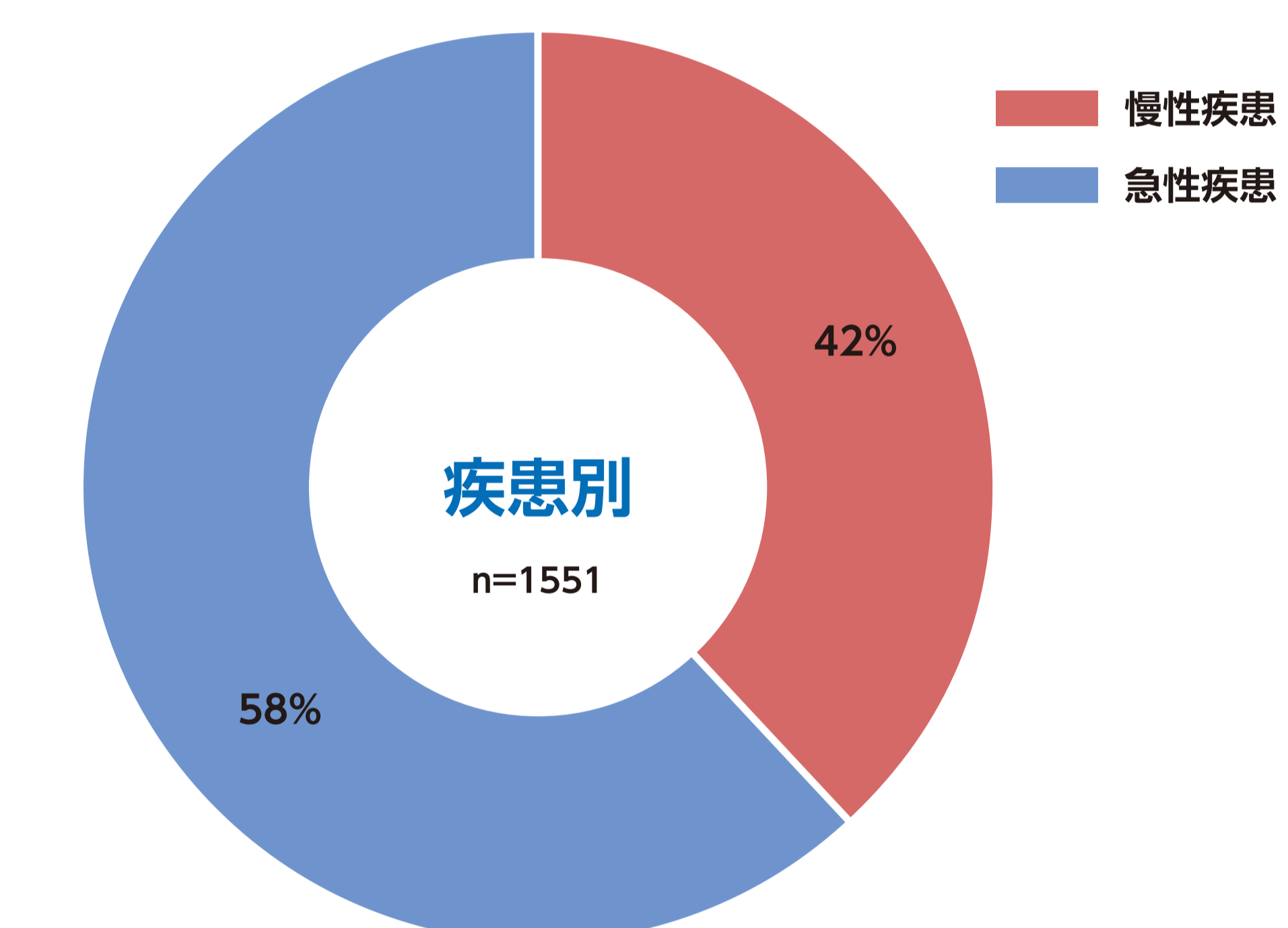
期間：2018年2月26日～3月3日
スブルー・メディカル、あおい調剤グループ25店舗
アンケートの項目：①年齢 ②疾患 ④忘れられた理由 ⑤来局頻度 ⑥他科併用薬の有無
アンケートは、患者に聴取する形とし、集計方法はクロス集計で行い、項目ごとにデータを比較した。

アンケート回答者情報

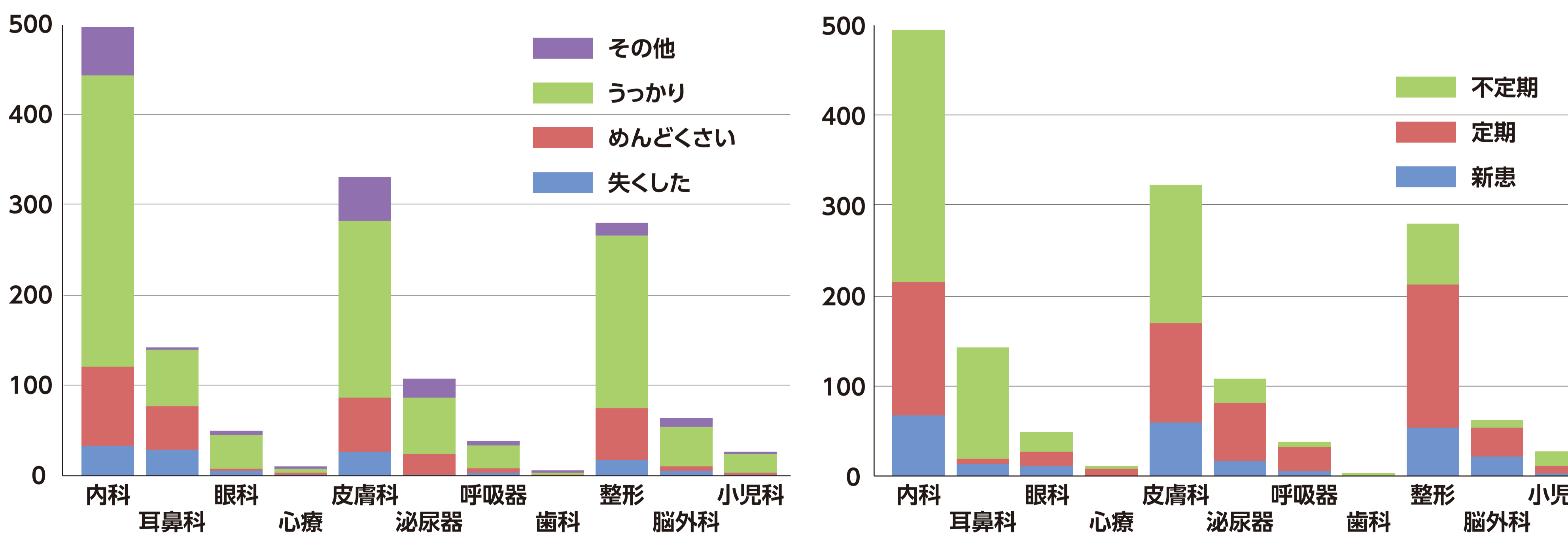
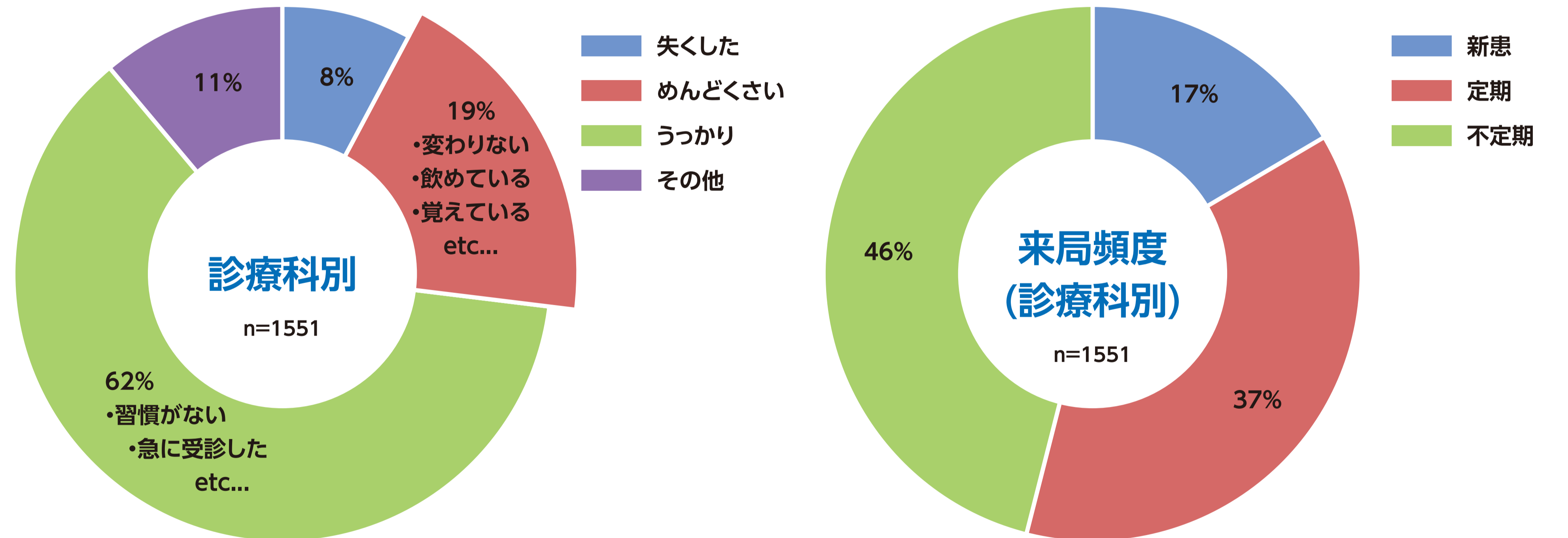


| 年齢 | 10歳未満 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80歳以上 |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 内科 | 21 | 57 | 62 | 84 | 90 | 74 | 50 | 46 | 14 |
| 耳鼻科 | 16 | 22 | 29 | 32 | 23 | 10 | 8 | 3 | 0 |
| 眼科 | 2 | 1 | 7 | 8 | 8 | 5 | 8 | 7 | 4 |
| 心療 | 1 | 0 | 0 | 3 | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| 皮膚科 | 37 | 40 | 60 | 52 | 47 | 28 | 35 | 19 | 13 |
| 泌尿器 | 1 | 1 | 4 | 9 | 11 | 22 | 25 | 21 | 11 |
| 呼吸器 | 0 | 0 | 2 | 8 | 6 | 5 | 12 | 6 | 0 |
| 歯科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 整形 | 1 | 14 | 15 | 28 | 44 | 49 | 52 | 48 | 30 |
| 脳外科 | 1 | 2 | 4 | 11 | 12 | 10 | 9 | 8 | 6 |
| 小児科 | 23 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 103 | 141 | 183 | 235 | 246 | 206 | 200 | 158 | 79 |

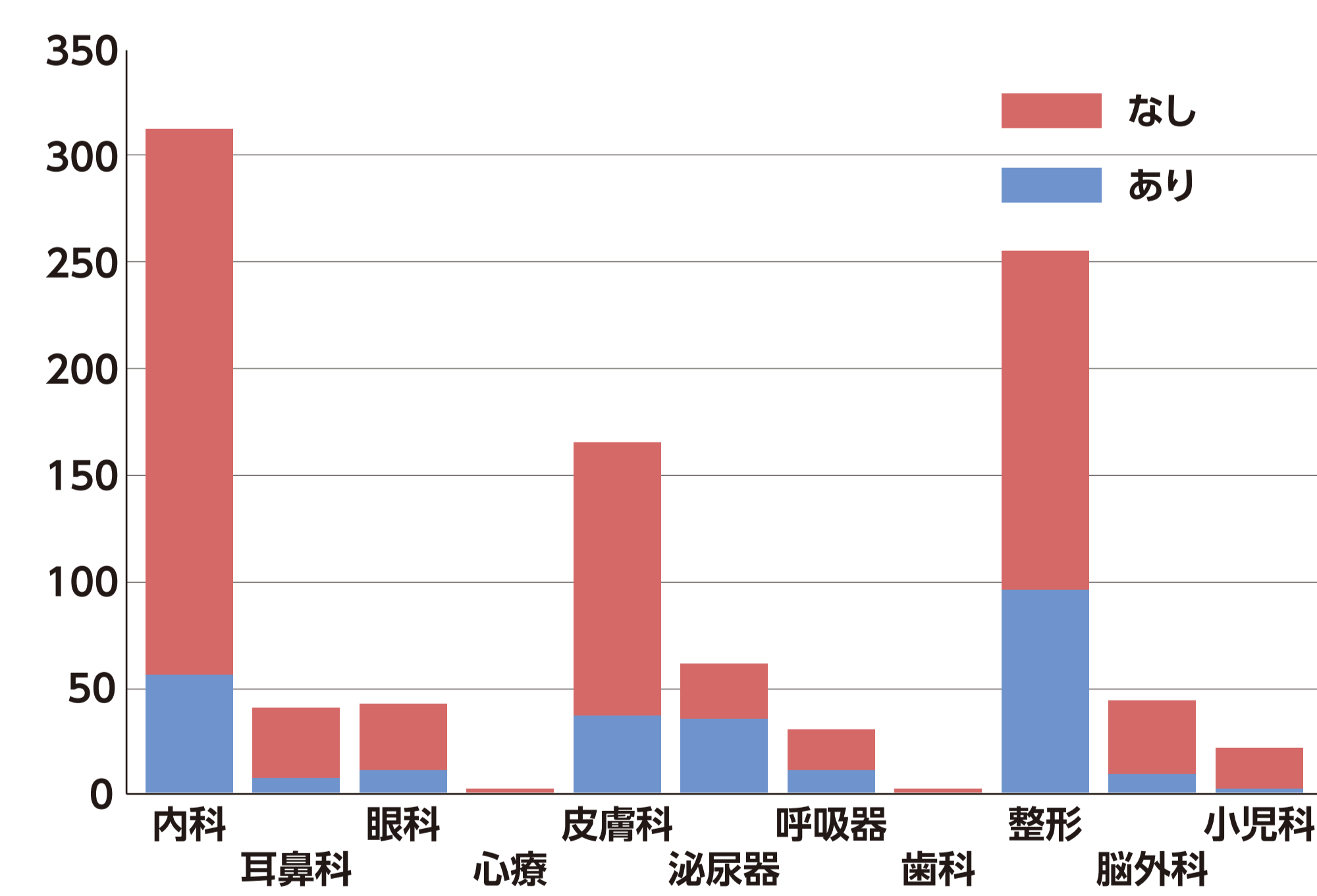
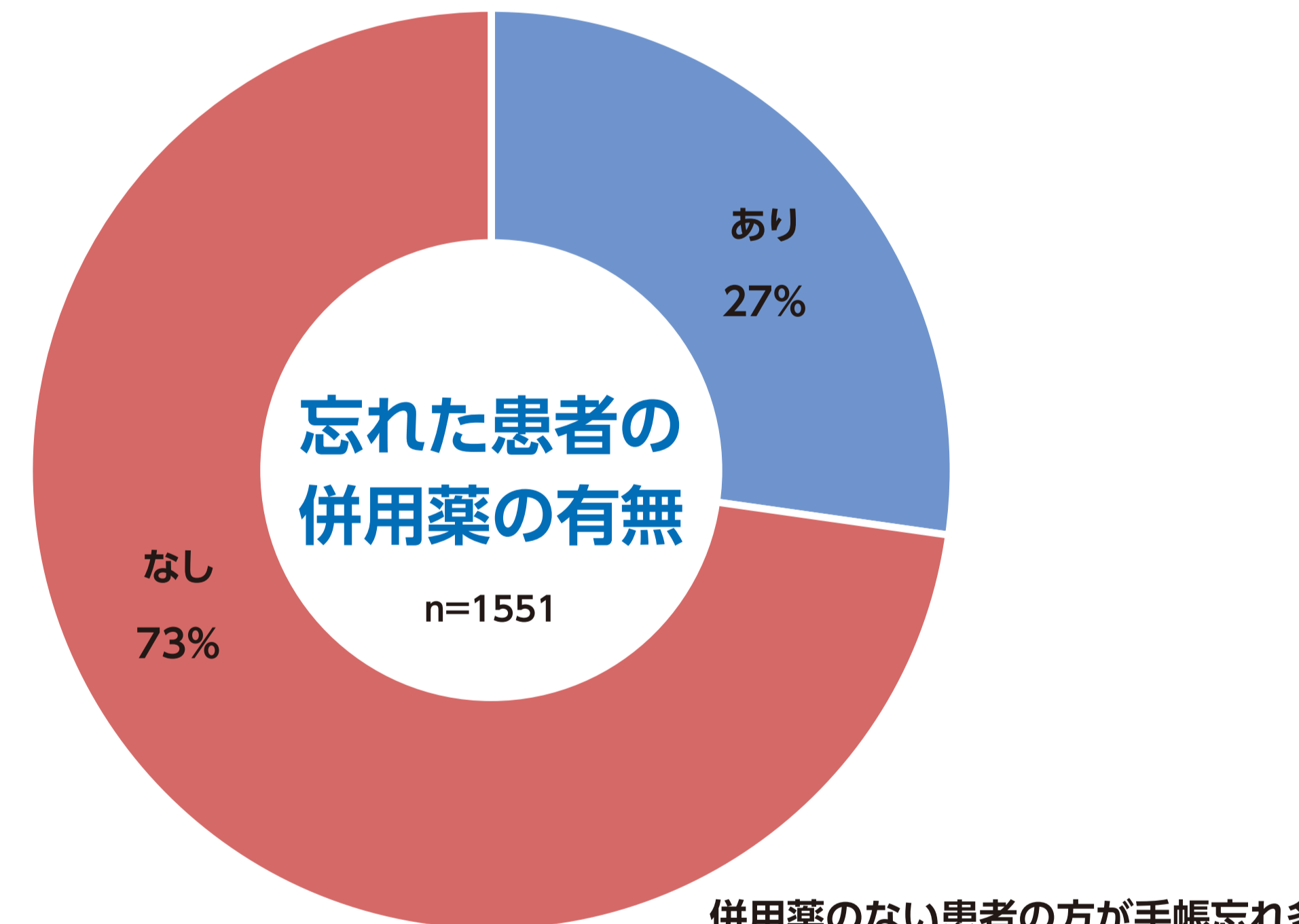
疾患別



忘れられた理由・来局頻度



併用薬



結果

- アンケート回答者は1,551名(男性738名、女性813名)
- ①診療科ごとのお薬手帳を持参しなかった人:内科(498名)、皮膚科(331名)、整形外科(281名)、耳鼻咽喉科(143名)、泌尿器科(105名)、脳外科(63名)、眼科(50名)、呼吸器科(39名)、小児科(27名)、心療内科(10名)、歯科(4名)
 - ②疾患の項目では、ほとんどの科では急性期疾患が多く選択されたが、整形外科・泌尿器科・呼吸器科・心療内科は慢性期疾患の患者が手帳を持参しないという傾向にあった。
 - ④忘れられた理由の項目では、すべての診療科で、持ってくる習慣がない、急に病院にかかったから、などの理由で「うっかりして忘れてしまった」という理由が一番多かった。また、その他の理由としては、持ってきて意味がない、手帳がいっぱいになっているため、という理由も見られた。
 - ⑤来局頻度の項目では、整形外科・泌尿器科・脳外科・呼吸器科、心療内科は定期で通院する患者が多く、内科・皮膚科・耳鼻咽喉科・眼科・小児科・心療内科・歯科は、不定期で通院する患者が多く見られた。
 - ⑥他科併用薬の項目では、泌尿器科のみが「他科併用薬あり」の選択が多かったが、それ以外の診療科では「他科併用薬なし」の選択が多かった。併用薬のない患者の方がお薬手帳を忘れることが多い傾向にあった。

考察

今回の調査から、うっかり忘れたという人が一番多かった。うっかり忘れた理由としては「習慣がない」、「急に受診した」、などの理由が多く聞かれた。うっかりとは、本来は持ってくる意欲のある方が忘れるのであり、その理由のほとんどが保管方法に原因があるのではと考えられる。手帳を持参される方の多くが診察券や保険証と一緒に管理されて受診の際のセットとして捉えられている。忘れられる方にも受診の際に必要なセットとして管理するように口頭や店内掲示で理解してもらえれば改善が見られるのではないかと考えられる。特に慢性疾患の方には普段から持ち歩くことで緊急時や災害時の際に重要な事を説明しカバンや車内など常に携帯してもらうようにできればと考える。

次に多い理由として、めんどくさいということが多かった。めんどくさいと感じてしまっ手帳を持参しない患者も多く見受けられた。理由には「処方薬に変更がないから」、「しっかり薬を飲んでいるから」、「他の病院で処方されている薬の名前は覚えているから」等、お薬手帳を自分だけの「手帳」と理解している方が多く見受けられる。自身の服用されている薬を覚えている方は多いが、規格、服用量まで正確に記憶されている方は多くはない。めんどくさいという理由の方にもお薬手帳は医療機関と医療機関を結ぶためのツールである事を理解してもらい持参に繋がればと考える。